

令和6年度第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会 議事録（概要）

○開催日時 令和6年5月28日（火） 13時30分から15時30分まで

○開催場所 米子市役所本庁舎4階 402会議室

【各申請団体プレゼンテーション概要】

申請団体1

よなごまちジャズプロジェクト実行委員会

事業名

よなごまちジャズプロジェクト事業

事業概要

プロジェクトメンバーや学生など地域在住のアマチュアジャズプレイヤー等によるライブ及びセッションを米子市中心市街地で連続的・継続的に展開し、地域イベント等に参加することで、地域の音楽振興とまちの活性化に資することを目的とする。

《発表内容》

- ・きっかけは鳥取大学医学部のジャズ研究会からの進言。せっかくジャズの練習をしても発表する場がなかなかない。学生のみならず市内のアマチュア演奏者も同様の悩みを抱えていた。そのような声に応えるべく、ジャズライブを行う場を提供したいと考えた。
- ・どうせやるならジャズを通じた地域振興をしたいと思っている。場所としては、中心市街地の既存施設・店舗の活用を考えている。
- ・昨年9月にプロジェクトを発足し、四日市町のカフェでライブを行った。その後これまで月1回程度、30～50人規模のライブを行ってきた。
- ・今年に入ってから、NPO法人や文化財団とも連携し、事業を実施したところ、県外のお客様からも非常に好評であった。
- ・ライブ以外にジャズセッションも行い、演奏者の技術向上や人材育成も積極的に行っている。
- ・6月からは法勝寺町のダラズクリエイトボックスを拠点に展開し、にぎわい創出、チラシやフライヤーを使い、より多くの人たちに活動を周知していきたい。ジャズの裾野を拡げ、中心市街地の活性化、最終的には「米子といえばジャズが流れる街」と思ってもらえるような取組を、息の長い活動として続けていきたい。

《質疑応答》

- ・発足以降の活動の中で、広がりを実感している部分があるか。
⇒感じている。市内だけでなく、周辺地域のプレイヤーにも認知されていていっている。これまでジャズを聞いたことのないような方も興味を持ってライブを見に来てくれたりしている。また、会場となる施設を多くの人に知ってもらえる。例えば、1月には高島屋5階のローズラウンジで演奏したが、これまで知らなかった人たちにも「こんなところがあったんだ」と認識してもらうことができた。
- ・入場料の設定の違いは、大人と子どもで違うのか。それとも会場利用費で変動しているのか。
⇒会場利用費で変動させる。高校生以下は基本無料で考えている。

申請団体2

福生東地区青少年育成会

事業名

中学生のパワーを地域に生かす！

事業概要

年間を通して行う、青少年育成会行事で、子ども達から高齢者まで地域住民の繋がりを深めるの中で、中学生ボランティアを募集して、地域の活性化を図る。

《発表内容》

- ・昨年度、米子市でコミュニティスクールの運営がスタートし、地域で子どもを育てようという取組が本格化していている。様々な活動をする中で中学生ボランティアを募集したところ、数人集まってもらえた。
- ・実際活動してみると、イベントの中で、ボランティア人員であることがパッと見てわからない。ボランティア人員であることがわかるよう、Tシャツを作ってはどうかという意見があった。見栄えすることにより、子どもたちのモチベーション向上に繋がり、和が広がっていくのではないかと考えている。
- ・現在は青少年育成会でボランティアクラブを作ってメンバーを集めている状態だが、ゆくゆくは福生中学校でボランティアクラブを発足させ、活動を活発化させてゆく想定。
- ・去年は手探りだったが、今年は企画段階から子ども達を参加させていきたいと考えている。

《質疑応答》

- ・中学生に限定しているのは、福生中との連携を意識しているからか、高校生は巻き込まないのか。
⇒募集対象は中学生だが、卒業後も続けたいという声には応えていくつもりである。
- ・Tシャツ枚数に対し、支出額が多いように思えるがどうか。
⇒特注でプリント代を含めると、どうしても少し費用は嵩んでしまう。
- ・コミュニティスクール活動の一環として、企画段階から中学生も参加させながら活動する意向との事だが、地域住民と中学生との打ち合わせ等はどのような時間帯に行うことを想定しているか。
⇒土曜の午前中等を想定している。年間を通した全てのイベントの企画というわけではなく、11月の公民館祭の一部ブースについてまずはチャレンジしてみてもどうかと考えている。
- ・Tシャツの作成枚数は30枚とのことだが、これは集めるボランティアの人数の目標もそのぐらいを想定しているのか。
⇒強制はできないが、各学年3人ぐらい集まればいいかなと考えている
- ・では枚数的には、予備も含めての設定か。
⇒そう考えている。もちろん募集した際に想定より多く集まってくれる可能性もあるが、その場合、上限30人との想定である。
- ・Tシャツが参加率を上げるツールの1つという位置づけか。
⇒そう考えている。写真を撮影する機会も多く、その写真が学校などにも掲示されるため、宣伝効果も期待している。
- ・イベントごとに都度レンタルするようなイメージか。
⇒イベントごとというよりは、募集して集まってくれた子に、1年単位で貸与するようなイメージを持っている。

申請団体 3

米子市スケートボード協会

事業名

「アーバンスポーツ×広場有効活用」若者による商店街活性化

事業概要

東京 2020 オリンピック大会を契機に、人気急上昇中のスケートボード、BMX などの都市型スポーツ「アーバンスポーツ」。広場有効活用を図るとともに、若者を呼び込んで地域活性化、商店街活性化に寄与する手段として位置づける。

《発表内容》

- ・オリンピック種目となったスケートボードや BMX 等、都市型の競技を総称してアーバンスポーツと呼ぶ。
- ・アーバンスポーツと広場の有効活用を通してまちおこしをしたいと考えている。
- ・10 年程前から、子供向け・初心者向けの施設を作ってもらおうよう要望を出しているが、なかなか実現には結びついていない。それであれば、街にある広場を有効活用できないかと考え事業計画を立てた。
- ・街中の多目的広場等は、原則としてスケートボード禁止、といった看板が設置してあるケースが多いが、米子元町どおり商店街と市の協力により、一定のルールを守りながらであれば、ということで使用させてもらっている。今後、オープンな形でルールを整備し、広く多くの人が自由に使えるような環境を作りたいと考えている。
- ・これまでのイベント開催は、しっかり管理しながら行ってきたので、苦情等はあまり出ないが、少なからず存在する苦情の内容を吟味し、それに対応するルール作りをすることが大事だと考えている。
- ・広場をこういった形で活用する事例は他所でもあまり聞かないため、全国的にも先駆的な取組だと考えており、人が集まることを期待している。

《質疑応答》

- ・パティオ広場に屋根が出来ることで、スペース的には若干狭くなる。このことは、何か活動に支障はないか。
⇒特になく考えている。雨の日でも使えたり、屋根の設置でコンセントが増設される分、キッチンカーを呼べたりと、メリットが非常に大きいと考えている
- ・米子市民全体に対する宣伝はしたことはあるか、年配世代ではほとんど聞いた事がなく、今日までこのような活動をしていることは知らなかった。ルール整備で多くの人に使ってもらおうという取組は非常に興味深いので、是非もっと多くの人に周知できるような PR をしてみてもどうか。今のままだと、自分たちだけで楽しんでいるような誤解を生みかねない。是非もっと宣伝した方がよい。
⇒ターゲットが若者であるので、SNS 等を通じた発信はしているが、年配の方に周知するには何が有効なのか実はわかっていない。もしよかったら、有効な宣伝ツールをご教授いただきたい。
- ⇒「こはく」のようなフリーペーパー等を活用してはどうか。また、せつかくの大きなイベントなので、メディア等にも取り上げてもらえるよう、はたらきかけてみるのも有効かと。

- ・今回大がかりなイベントに向けて、豪華なセクションを組むのに補助金が使われるが、それ以外のときは、体験・指導などはセクションのない平場での活動になるのか。
- ⇒セクションパーツなどは随時買取を行っており、軽トラで運べるような状態にしてある。それを持ち運び、広場で組み立てて使ってもらっている。

【審査結果】

◇審査結果

申請のあった3団体の事業をすべて「採用（交付金の交付）」と判定した。

◇交付金の交付に当たっての審査会からの付帯事項

（よなごまちジャズプロジェクト実行委員会）

- ・特になし

（福生東地区青少年育成会）

- ・若年層の心を掴むようなデザイン性を重視するならTシャツは有効かもしれないが、貸与という形を取るならば材質的に適切ではない。ビブスのように繰り返し使うのに適した素材を検討するか、もしくは、シャツなら貸与ではなく支給とする等、取組の方法を検討すること。

（米子市スケートボード協会）

- ・参加者を増やすための情報発信に留まらず、取組の有効性を幅広い世代に知ってもらうためのPRも、積極的に行うよう努めること。